

佐沼高等学校

校訓 至誠・「献身・窮理・力行」



1 基本データ

創立：明治35年
課程・学科：全日制課程・普通科
生徒数：681名
所在地：〒987-0511
登米市迫町佐沼字末広1番地
TEL：0220-22-2022
FAX：0220-22-2023

ホームページアドレス：
<https://sanuma.myswan.ed.jp/>
代表者電子メールアドレス：
sanuma@od.myswan.ed.jp
主な交通機関：
JR東北本線「瀬峰駅」下車→登米市市民バス南方線佐沼方面行き乗車（35分）
→「佐沼高校正門前」下車 徒歩1分
JR東北本線「新田駅」下車→登米市市民バス新田線佐沼方面行き乗車（21分）
→「佐沼高校北」下車 徒歩2分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

『佐高で咲こう』

プラス思考と積極的挑戦を意識した『積極的なチャレンジの機会を求めよ！』をスローガンに、「咲こうとする意志・意欲」の結晶として自分たちの夢の実現のために、佐高で新しい歴史を創っています！

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

本校は県の北部、登米市の農業及び商工業の中心地である迫町にあります。近くには白鳥やガンの飛来地として有名な伊豆沼があります。本校は、明治35年旧制宮城県第二中学校の登米分校としてスタートしました。その後独立して大正8年に佐沼中学校と名前を変え、昭和23年には現在の名称である佐沼高等学校と改称するとともに、男女共学の学校となりました。一昨年度120周年を迎えた伝統のある学校であり、27,000名を超える卒業生が、各界で活躍しています。

(2) 教育方針

校訓の「『献身・窮理・力行』の三徳を至誠をもって貫く」の教えと校是の「文武両道」を大切に、21世紀の国際社会を生き抜くことができる英知、健全な心身を持った徳性の高い人物を育成することを教育目標としています。

また、伝統として人格の陶冶と学問の探究を校風としており、常に高い学力の獲得と豊かな個性をもった生徒の育成に努めています。さらに、拠点校として、地域の教育力向上に貢献しています。

これらの目標を実現するため、以下の取組を行っています。

- ・地域理解講演会、職業人講話（1年）
- ・Sanuma Summer University
（大学教授による出前授業）
- ・夏期・冬期課外（全学年）
- ・進路講話（全学年）
- ・探究発表会（全学年）
- ・先輩に聞く（1・2年）

(3) 教育課程の特徴

進路目標達成を視野に入れた授業づくりをしています。特に、多くの生徒が希望している国公立大学進学へ重点をおいた内容となっています。

1年次：基礎学力の養成（国語・数学・英語の重点的な指導）

2年次：類型制（文系と理系）による進路目標達成に向けての早期取組

3年次：具体的な進路に応じた科目選択
授業は50分の7時間（月・金曜日は6時間）で思考力の向上をはかり、「自律的学習者」の育成を目指しています。

総合的な探究の時間は、地域人材・地域資源をはじめ国内外との連携を意識し、地域課題研究・学問研究・進路プランニング・小論文指導など、3年間の系統的な指導を行っています。

新1年生には、学習の仕方、高校生活の概要等についてオリエンテーションを行っています。

(4) 行事・生徒会活動・部活動

学校行事は、ダンスフェスティバル、佐高祭、スポーツフェスティバルなどがあり、生徒による主体的な運営がなされています。生徒会活動そのものも活発に行われています。

部活動も盛んであり、令和5年度は、ボート部女子舵手付クォドルプルがインターハイに、美術部が全国高等学校総合文化祭に出場しました。また、陸上競技部男子3000mSC、棒高跳、走幅跳、女子棒高跳、ボート部男子ダブルスカル、女子シングルスカル、ダブルスカル、舵手付クォドルプルで東北大会出場を果たしています。さらに、陸上競技部男子3000mSC、男女棒高跳、ボート部男女シングルスカル、ダブルスカル、舵手付クォドルプルは東北新人大会に出場し、男子ダブルスカル、舵手付クォドルプルは全国選抜大会に駒を進めました。

県総体ではラグビー部が第2位、男子ソフトテニス部団体がベスト8となり、団体競技においても目覚ましい活躍をみせています。

県新人大会では、ラグビー部が第2位となり東北新人大会に出場、男女ソフトテニス部団体、男子バドミントン部団体、男子柔道部団体・個人、剣道部男子個人の各競技、選手が上位入賞を果たしました。

大会成績のみならず「何事にも真摯に取り組む人物の育成」という本校の教育目標に相応しい活躍を見せました。

(5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R5	R4	R3
国公立大学	32	37	37
国公立短大	2	1	1
私立大学	99	119	114
私立短大	5	8	6
専各学校	45	43	39
就職	22	16	17
その他	5	9	14
卒業生計	210	233	228

主な進路先（令和6年3月卒業・76回生）
（ ）内は人数（1）は省略

<国公立大学>

東北大学、宮城教育大学(4)、弘前大学、岩手大学(9)、秋田大学、山形大学(4)、福島大学、千葉大学、富山大学、宮城大学(3)、青森県立保健大学、岩手県立大学(3)、福島県立医科大学(看護)、都留文科大

<私立大学>

東北学院大学(28)、東北福祉大学(10)、東北工業大学(9)、東北医科薬科大学(2)、宮城学院女子大学(4)、尚絅学院大学(2)、仙台大学(2)、東北文化学園大学(2)、石巻専修大学、仙台青葉学院大学(2)、岩手医科大学(看護)(2)、東北芸術工科大学(2)、新潟薬科大学(2)、白鷗大学、文教大学(2)、城西大学、明治大学、駒澤大学(2)、国士舘大学、獨協医科大学、立正大学、群馬パース大学、高千穂大学、東京農業大学(2)、中央大学(2)、帝京大学(4)、東海大学(3)、拓殖大学、神奈川大学(2)、順天堂大学、他

<専修各種学校>

石巻赤十字看護専門学校(4)、仙台医師会看護専門学校、J R 東京総合病院高等看護学園、昭和大学医学部附属看護専門学校(2)、他

<就職>

国家公務員[一般職](2)、[刑務官]
宮城県職員[学校事務]、仙台市職員[消防]
登米市職員[行政](5)、栗原市職員[行政]
ウジェスパー、七十七銀行、仙北信用組合、トヨタ自動車東日本株式会社、他

3 学校魅力発信

(1) 本校生徒の活躍

ラグビー部東北新人大会出場

県新人大会でラグビー部が準優勝を果たし、令和6年2月8日～11日に福島県のJヴィレッジで行われた東北新人大会（I部）に出場しました。県外の強豪校を相手に最後まで戦い抜き、第5位という成績を収めました。



佐藤 証成さん（南方中出身）からのコメント

2月に福島県で行われた東北新人大会に出場し、5位という悔しい結果に終わってしまいました。この悔しさを糧に県総体に向けて頑張っています。ラグビー部員のほとんどが高校からラグビーを始めました。そのような人達でも県選抜選手となるなど大きく活躍しています。中学生の皆さん、痛いことは何もないので是非ラグビー部に入部してください。

ボート部全国選抜大会出場



東北選抜大会で男子ダブルスカルが第1位、男子舵手付クオドルブルが第3位入賞を果たし、令和6年3月22日～24日に静岡県天竜ボート場で開催される第35回全国選抜大会に出場しました。

木村 時万さん（南方中出身）からのコメント

仲間たちとともに多くの困難や壁を乗り越えて全国選抜大会へ出場することができ嬉しく思います。県新人大会や東北選抜大会で培った経験、今までの練習の成果を全国の大舞台で十分に発揮し戦ってきます。佐高ボート部は初心者でもこのような大きな大会に出場できる唯一無二の部活動です。新しいことに挑戦してみたい方、興味のある方は是非ボート部を覗いてみてください。

美術部全国総文祭出場

美術部2年の林莉々花さんが第76回宮城県高等学校美術展で優秀賞を受賞し、令和6年7月31日から岐阜県で開催される第48回全国高等学校総合文化祭（清流の国ぎふ総文2024）美術・工芸部門への出品が決定しました。

「RECYCLING」※映像作品→



林 莉々花さん（中田中出身）からのコメント

私は今回、ごみを再利用するリサイクルをユーモアに表現するために、ごみを材料にして餃子を作るという映像を制作しました。初めて映像作品に挑戦したこともあって思いどおりにいかないことも沢山ありましたが、悪戦苦闘の末、全国総文祭に出品することができうれしさで一杯です。本番まで一から作り直し、全国大会でも良い結果を残せるように精一杯頑張りたいです。

(2) 学校三大大事

ダンスフェスティバル

1年生から3年生までの縦割りりで、校訓でもある献身、窮理、力行の各団に分かれて覇権を競い合います。全員ダンス部門、有志グループが演じる代表グループ部門、事前に撮影したものを上映する映像部門があります。



佐高祭



4年振りの一般公開となった昨年度は、自然科学部の研究発表や吹奏楽部、箏曲部によるステージ発表、各部のパネル展示、実演等が行われました。校舎内外では3年生各クラスや地元商店街コラボ企画による飲食販売の模擬店が出店され、大盛況でした。

スポーツフェスティバル

2クラス合同の計9チームで佐高杯を争います。ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、タッチラグビー、バドミントン競技が開催され、チーム一丸となって大いに盛り上がりました。閉会式時に行われる、全校生徒が肩を組んでの校歌斉唱は圧巻です。



(3) 学校制服紹介

昔ながらの学生服で、男子は黒の詰め襟服、女子は紺色制服を着用することが義務付けられています。創立時から100年以上の歴史を持っています。

夏場や授業時には、「Sanuma」の頭文字「S」のイニシャルが入ったベストやセーターの着用も認められています。

男子は校章の図案が入った金色のボタンが特徴的です。女子は学年が上がるにつれて黄、緑、赤と変わる胸章やリボンがポイントです。2020年4月から女子のスラックスも導入されました。



(4) 施設紹介

2021年6月に新体育館、2022年10月にテニスコートが完成。授業や部活動で大いに活用されています。体育館には地元産の木材がふんだんに使用され、木の温もりが感じられる開放感ある構造となっています。



現在、仮設校舎での生活を余儀なくされていますが、全ての教室にエアコン及び電子黒板が完備されており、充実した教育環境が整っています。新校舎は2025年度に完成予定です。

4 在校生からのメッセージ

生徒会長 櫻田 美咲さん（米山中出身）からのコメント

本校は学習にも部活動にも力を入れており、大学進学だけではなく多くの大会で成果を収めています。周りの仲間たちと高め合いながら学校生活を送っており、人として成長できる場です。ユーモア溢れる人が多く日々笑顔が絶えません。先生方も親身になって話を聞いてくださるため、とても居心地が良い場所です。皆さんのご入学を心からお待ちしています。是非、佐高で咲こう！

応援団長 及川 諒太郎さん（新田中出身）からのコメント

本校の学生服は100年以上前から変わっていません。多少時代を感じさせるものの、その中にある洗練された美しさが多額の佐高生を一回り成長させてくれます。高校では楽しいことや辛いことがたくさんあります。そんな時は、先生方や友人に頼るのはもちろん、学生服ともその感情を共有してください。皆さんもこの学生服と一緒に過ごしてみませんか。